

腹腔鏡手術詳しく

製鉄室蘭病院公開セミナー

肝臓がんの術例を解説

製鉄記念室蘭病院(前田征洋院長)の「第36回市民公開がんセミナー」が25日、室蘭市知利別町の同病院で開かれた。

今回のテーマは「肝臓がんの外科的治療〜腹腔鏡下肝切除術を中心に〜」。同病院の仙丸直人副院長(外科・消化器外科)が講師を務めた。市民ら約50人が聴講した。

仙丸講師は、肝臓がんと



肝炎ウイルスの関係、発症原因、進行度や障害度の評価方法、部分切除など治療の方法、腹腔鏡手術例などを図解や写真、映像などで詳しく解説した。

また、腹腔鏡手術の利点、欠点を挙げ、「死亡率が高い」とみられている点については全国の手術例データを紹介。「全体は3・69%、腹腔鏡では2・27%で、腹腔鏡手術だから高いことではない。が、手術がもつて死亡例が一定の頻度で存在することも事実」と述べた。

最後に同病院のこれまでの手術例(47例)から手術時間、合併症度、術後在院日数などを紹介し「肝炎ウイルス検査を受けて調べてください」と結んだ。

(後藤英友)

肝臓がんについて解説する仙丸直人副院長